

トピックス

MPS (花き園芸環境プログラム) について

農林水産省生産局果樹花き課花き対策室 児 玉 広 志

はじめに

花き園芸環境プログラム (Milieu Programma Sierteelt) は世界の花きの集散地であるオランダで MPS 財団が運営している、農家による環境への負荷低減などの取り組みを促進するシステムである。MPS は今では花き以外の農業もカバーし始めているので、農業環境プログラムと訳されることもある。

筆者は昨年2月にオランダを訪問し、MPS 財団とも懇談する機会を得た。ここでは、筆者が MPS 財団から聴取した内容等を基に MPS について紹介する。

I 農業の環境負荷低減の取り組みを促進するシステム

MPS 以外にも、農業の環境への負荷低減の取り組みを促進するシステムはある。その一つは、「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」(平成11年10月施行)に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の投入量の低減に一体的に取り組む計画を立てた農家を認証するシステムで、この制度の下都道府県知事の認定を受けた農業者を「エコファーマー」と呼んでいる。2003年3月末現在26,233人がエコファーマーに認定されているが、このうち花きを栽培している者は73人である。なお、エコファーマーは2004年3月末には47,766人と、1年間でほぼ倍増している。

また、適正農業規範 (Good Agricultural Practices) は安全な農産物を生産するために必要な、圃場や集出荷施設などの環境整備と栽培管理において守るべき規範のことである。このうち、ヨーロッパで導入されている EUREPGAP (Euro-Retailer Produce GAP) は、欧州小売業組合により提案された花きも対象分野になっている規範であるが、規範を遵守する農家の認証制度があり、大手スーパーの中には EUREPGAP の認証を仕入れ元である農家に義務づける動きも始めている。

いくつかある農家の環境負荷低減の取り組みを促進するシステムの中での MPS の特色としては、環境負荷の低減度そのものを測定するシステムであること、参加農

家のさらなる環境負荷低減への取り組みを絶えず求めるシステムであることが挙げられる。

II MPS の仕組み

花き農業は、花のみでなく、葉、茎までも製品の一部になり、それが観賞の対象になるという他の農産物に比べて特殊な製品を作り出す農業であり、先進国では施設内の人工環境下での栽培が主になっているため、他の農業セクターに比べて単位面積当たりのエネルギー、農薬、肥料等の投入量が多くなる傾向にある。

MPS はこの花きセクターから始まった、農家による環境への負荷低減等の取り組みを促進するシステムである。MPS は1993年にオランダのウエストランドにて、参加農家の環境負荷の低減と花き産業のイメージの改善を目的としたパイロット事業として始まった。その後、1995年にオランダ花き市場協会と生産者協会により MPS 財団が設立され、MPS の参加農家がオランダ全土に広がっていった。MPS の創設の目的にある花き産業のイメージとは、消費者並びに花き販売業者のもつイメージであると考えられるが、花きは食料ではないため、消費者の花きに対するイメージ如何で大きくその需要が左右されることから、MPS は農業の環境負荷に厳しい目を注ぎ始めたヨーロッパの消費者を十分意識して、消費者と花き販売業者に対する「花き産業はこれだけ花き生産の環境負荷低減に努力しています」とのアピールのために花き農家と花き市場が創設したシステムであるといえる。

MPS 財団では MSP 参加農家のエネルギー、農薬、肥料の投入量と廃棄物の処理方法といった各要素の数字を把握し、その情報に基づき各農家を A, B, C にランク付けしている。例えば、100ポイントのうち、農薬が40、エネルギーが30、肥料が20、廃棄物が10と割り当てられているとすると、それぞれの要素の投入量等が最も少ない農家の集団がそれぞれの満点を獲得する一方、最も多い農家の集団はポイントを獲得できない。四つの要素の合計獲得点が70ポイント以上、55ポイント以上70ポイント未満、10ポイント以上55ポイント未満の農家がそれぞれ A, B, C を獲得する。

参加農家が複数の作目を栽培している場合は、その農家のポイントを加重平均で算出する。例えば、ある農家

Floriculture Environmental Programme. By Hiroshi KODAMA

(キーワード: 花き園芸環境プログラム (MPS), 環境負荷の低減, エコファーマー, 適性農業規範)

が4haの農地でバラを3ha, ガーベラを1ha栽培しており, 農薬に関するポイントがバラでは40, ガーベラでは20であれば, その農家の農薬のポイントは $(3 \times 40 + 1 \times 20) / 4$, すなわち35となる。他の要素についても同様に算出し, 合計獲得ポイントでA, B, Cのランク付けが行われる。このため, 参加農家が花き以外の作目を栽培している場合, その農家のポイントおよびランクは花き以外の作目での環境負荷低減の努力も加味されて付けられることになる。

参加農家は4週間に一度, 各要素の投入量等をMPS財団に報告する。MPS財団は4半期に一度最新のデータを基に参加農家の獲得ポイントを算出し直し, ランクを付け変える。このため, 参加農家は一度MPS-Aを獲得してもその後格付けがB, Cに落とされるおそれもあるため, 常に環境負荷低減の努力を行う必要がある。

また, それぞれの国の気候条件, 環境関係の課題は異なっていることから, 各国単位にMPS支部を立ち上げ, MPS支部がその国の参加農家と財団本部との連絡窓口となるのであれば, それぞれの国独自にMPS基準を策定することも可能である。例えば, 温暖な気候のため温室の加温に関するエネルギー投入量についての問題があまり深刻でない一方, 乾燥地域であるため水の問題が深刻なイスラエルでは, エネルギー使用量に割り当てるポイントを少なくする一方, 水の使用量を要素に入れ, ポイントを割り当てている。また, 農家のランクもそれぞれの国の参加農家の相対評価で決まる。

III MPSの普及度および効果

MPSはオランダの花き業界では有名である。オランダの市場では, セリの際にその農家がMPS-Aを獲得しているというような情報が紹介される。また, 一部の流通業者がMPS-Aの農家の花きしか扱わないなど, MPSを農家選別の材料にしている。結果として, オランダの花き農家の70%がMPSに参加している。2002年にオランダで開催された国際園芸博覧会に関連して, (財)日本花普及センターから派遣された長期実務研修生の報告によると, 研修生がインタビューした農家の中では, MPSへの加入およびMPS-Aなどのランクの取得によって販売単価がアップしたと答えた者はいなかった。しかし, オランダの花き農家からは, 一部で否定的な評価もあったが, 多くは花き農家として社会的責任を果たしていることを示すよい手段である, 自分と顧客の健康のためにも必要, バイヤーがMPS-Aの品物を好むので必要, などのMPSへの肯定的な評価がなされていた。

また, MPSがオランダで創設されたという事実は世界の花き産業にとって大きな意味をもつ。まず, オラン

ダは世界有数の花き生産国である。2002年の国際園芸生産者協会の年次報告書によると, オランダの花き生産額は中国に次いで世界第2位である。さらに, オランダは世界の花きの集散地である。国際園芸生産者協会の年次報告書には, 2001年のオランダへの花きの輸出国としてはイスラエル, ケニア等の78か国が明記されており, オランダからの花きの輸入国としてはドイツ, フランス, イギリス等の他のヨーロッパ諸国のみならず, 日本, アメリカ等全部で78か国が明記されている。また, 花きの輸入金額と輸出金額はそれぞれオランダ国内の花きの生産額の26%, 120%となっている。つまり, オランダにはイスラエル, ケニア等の花き生産国から大量の花きが輸入され, 国内産花きと輸入花きがアールスメア等のオランダの花き市場にて取り引きされ, 購入された花きはオランダ国内で売られるのみならず, 他のヨーロッパ諸国等の小売店にも大量に引き取られている。このため, MPSにはオランダ以外からもイスラエル, ケニア等のオランダへの大口の花き輸出国を中心とした20か国以上の約500の農家に参加している。

このようにオランダを中心に主に花き農家で普及しているMPSであるが, このシステムは着実に参加農家の環境負荷の低減を促進している。オランダではMPSの立ち上げ後, 環境負荷の低い防除法, 肥料の少量施用の技術等の発達と農家の意識改革の進展のために, 参加農家の2001年のエネルギー, 農薬, 窒素肥料, 燐酸肥料の投入量は1996年のそれぞれ87%, 84%, 98%, 94%にまで下がっている。

おわりに—MPSと日本

日本は雨量が多い, 湿度が高い, 寒暖の差が大きい等の気象条件から, エネルギーなどの投入量がオランダに比べて多いのでは, といわれている。しかしながら, 作目別に日本とオランダの農家のエネルギーなどの投入量を比べたことはない。このため, (財)日本花普及センターでは本年, 農林水産省の補助事業として日本の数十戸のバラ農家のエネルギーなどの投入量を調査し, これらの農家がオランダのMPSの基準ではどこに位置するかを確認を行うこととしている。

本事業の実施により, 環境への負荷という観点からの日本の花き農家の問題点が把握され, 環境への負荷の低減への取り組みが促進されるきっかけになることを期待している。

参考文献

- 1) AIPH, (2002) : International Statistics, Flower and Plants.
- 2) (財)日本花普及センター (2003) : ヨーロッパ花き産業調査報告書.